

研究のプロセス

現状の課題；大人数会話クラスの課題

一人ひとりの話す時間が少ない、何もしなくていい時間が多くなる、クラス内にレベル差がある、個別の学習状況の把握が難しい

→会話の授業は基礎日本語（総合授業）で学習済の文法を使って会話練習を行う。基礎日本語は中国人教師が担当しており、各学生の理解度の把握は困難である。会話練習前に文法の説明を行うことも可能だが、会話の授業は週に1回の授業のため、授業時間は可能な限り会話練習に使うことが望ましい。これまで会話練習前に簡単に文法の説明をしていたが、会話練習中に理解していない学生がいることに気づくこともあった。一人一人（20人）理解しているか確認してから、授業を行うと会話練習の時間が短くなるため、他の方法を模索したい。

仮説：教師が個別又は全体に文法の説明を行うのではなく、学生自身が会話練習で使用する文法を理解しているか判断できる方法（間違い探しビデオ教材）が必要。

解決の方法：

文法の間違いを含んだ映像教材を用いて、学生自身に会話練習で使用する文法の理解を判断させる。

映像教材の会話：～ませんか？～ましょうか？の違い

A：Bさんは、映画が好きですね。

B：はい、好きです。よく映画館へ映画を見に行きます。

A：そうですか。あの、実は昨日映画のチケットを2枚もらいました。

よかったら、いっしょに映画を見に行きませんか？

B：本当ですか。ぜひ行きたいです。

①映像教材を学生のスマホに送る。

②ペアで動画をみながら、間違いを探す。

③紙に間違っている箇所を訂正させて、提出。

例：一緒に映画を見に行きませんか→行きませんか？

④間違いを発見できなかった学生を注視しながら、文法の簡単な説明を行う。

検証の方法：

授業後にアンケート調査を実施。

質問事項

①文法

基礎日本語で学習した文法は十分理解している。

会話授業で文法の説明は必要である。

文法説明の時間は短いほうがいい。

②学習目的

課題の目的、目標は明確だった。

文法に対する今現在の理解度を明確化するのに有効な方法だった。

文法の理解を深めるのに役立つ課題だった。

課題の難易度は適切だった。

③間違い探しビデオを活用した学習法

積極的に取り組むことができる課題だった。

学習意欲を喚起する課題だった。

新鮮さを感じる学習方法だった。

楽しく取り組むことができる学習方法だった。

学習の必要性を感じられない内容だった。

④ビデオの内容

会話場面の理解を促すための工夫が感じられた。

話すスピードや話し方は適切だと感じた。

スマホでビデオを見るのは見にくいと感じた。

⑤ペア学習

ペアで協力して課題に取り組めた。

ペアでの話し合いの時間は適切だった。

ペア学習でなく、個人で課題に取り組みたかった。